

令和7年度 京都理科学研究会

問い続ける子どもの育成

～子どもの“〇〇したくなる”があふれる授業～



研究主題設定の理由

これから求められる力

- ・不確実な状況であっても自力で進むべき方向を見いだす力
 - ・情報を科学的に判断したり、問題を科学的に解決したりしながら、意思決定や行動選択する力
 - ・情報をただ受け取るだけでなく、正確な情報を選び取る力
- 自分自身の力で学びを進めていく力が求められている

研究主題設定の理由

昨年度の研究より

問い続ける子どもの育成

～子どもが問いを見いだし思考がつながる単元デザイン～

- ・自然事象との出合わせ方の工夫
- ・子どもの思考がつながる単元デザイン

→児童一人一人が主体的に活動する授業

研究主題

問い続ける子どもの育成 ～子どもの“〇〇したくなる”があふれる授業～

研究主題に迫るために

①子どもが“〇〇したくなる”しかけづくり

②対話型模擬授業検討会

問い続ける子どもとは

自然事象への気づき

なんでかな？



どうなっているのかな？

問いの見だし

予想
観察・実験
考察



本当にこの方法で
いいのかな？

この結果からこのことが
本当に言えるのかな？

ふり返り

なるほどこういうことか！！

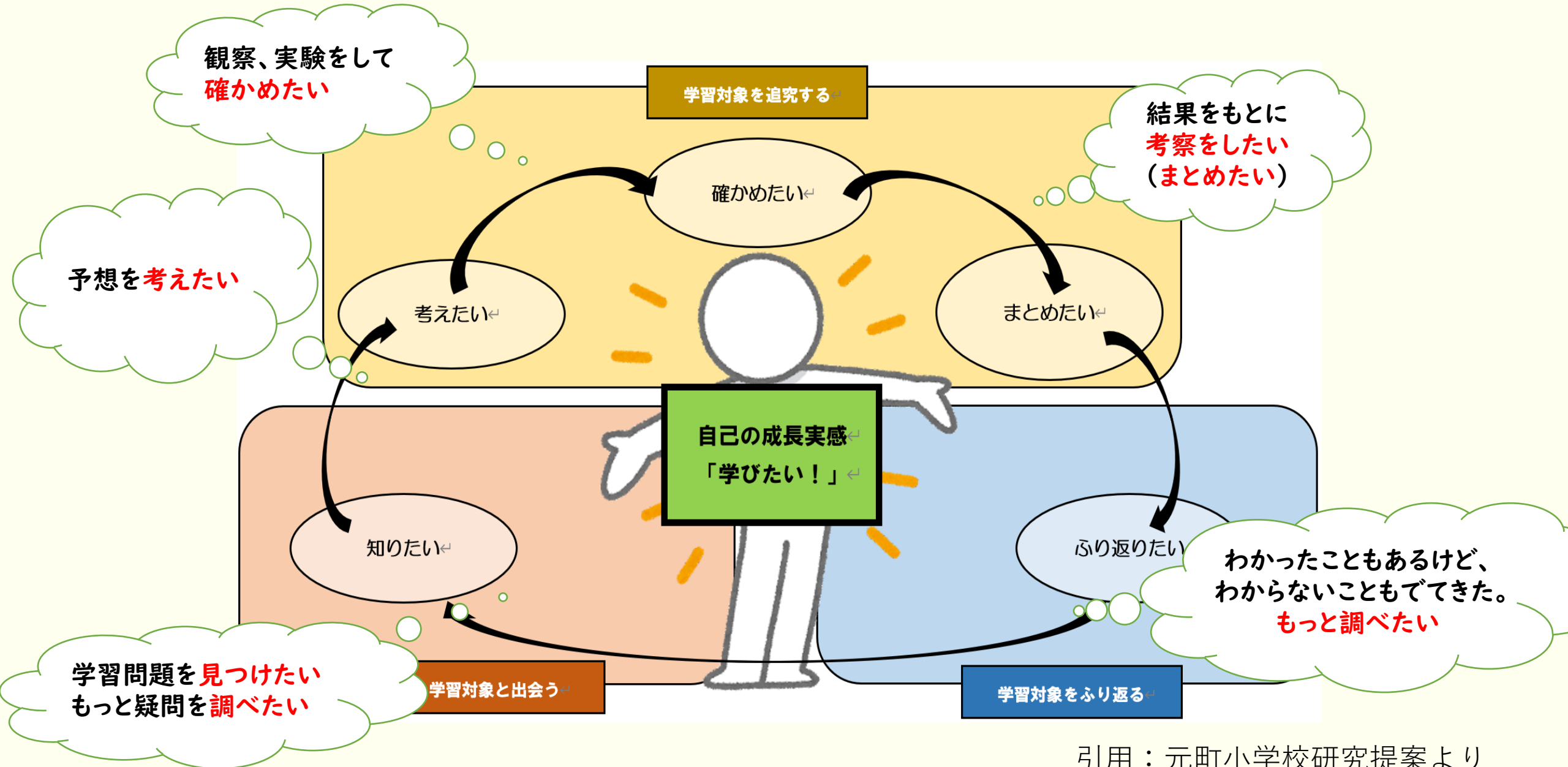


それなら、これ
はどうなってい
るのかな？

もっと続きを調
べてみたい！



子どもの「〇〇したくなる」があふれる授業とは

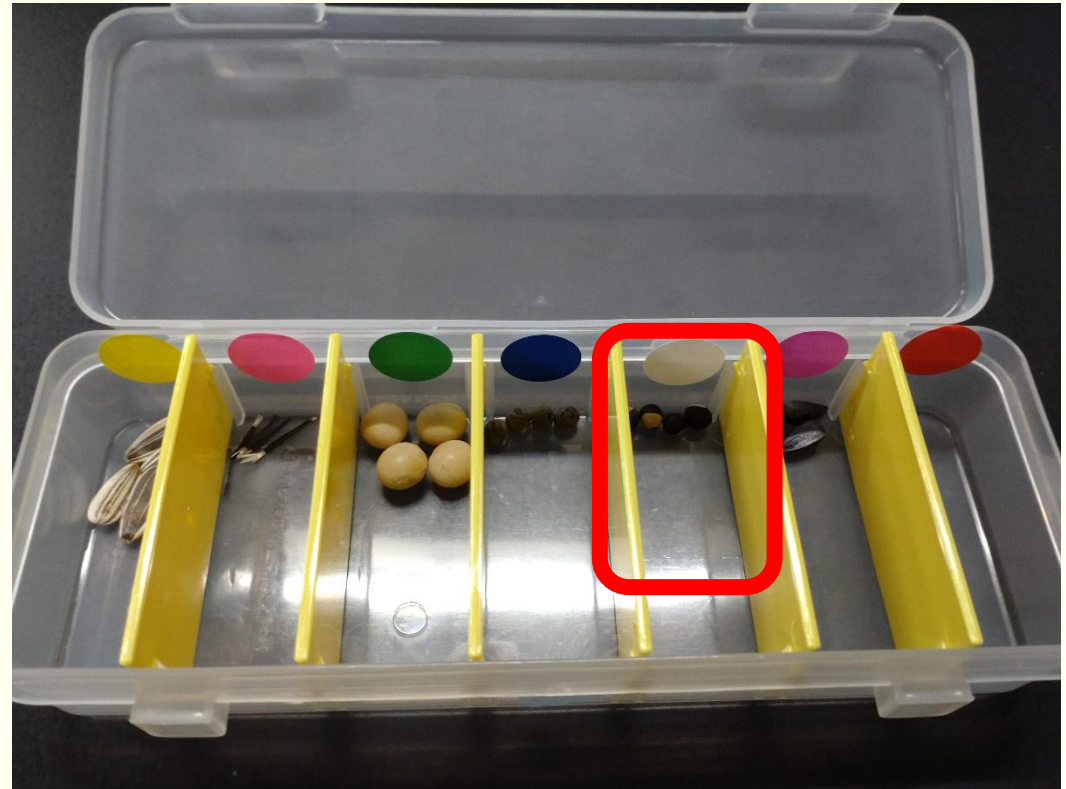
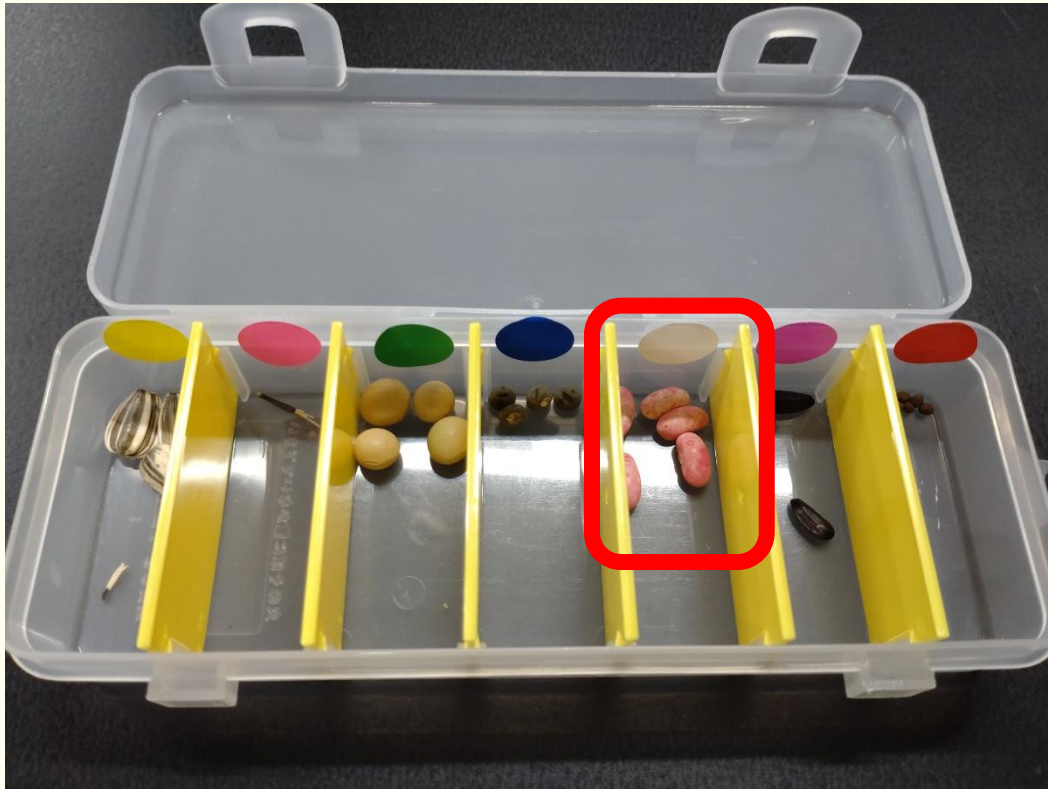


引用：元町小学校研究提案より

①子どもが“〇〇したくなる”しかけづくり

- ・教材の提示の仕方
- ・発問、声かけ など

例えば、教材の提示の仕方



②対話型模擬授業検討会

・今までの模擬授業検討会



・対話型模擬授業検討会

急に話が変わってえっ！
となった。

教材の提示の仕方でもっと調べてみたいと思った。

子どもになった
つもりで感じたこと
を伝え合う



対話型模擬授業検討会を通して

先生自身が“○○したくなる”＝子どもが“○○したくなる”

教材研究→対話型模擬授業検討会→指導案検討→各校での実践

令和7年度 京都理科学研究会

問い続ける子どもの育成

～子どもの“〇〇したくなる”があふれる授業～

